

はじめに

農地は、安全で安心な農産物を供給する生産の場であるとともに、貴重な緑地空間、教育資源、災害時の避難場所など、様々な役割と可能性を兼ね備えた市民にとってかけがえのないものになっています。

ただ、その一方で、市街化の進行や担い手、後継者不足など農業を継続していくには、とても厳しいものになっています。

このような状況の中で東京都では、農業が魅力ある産業として発展していくことにより、貴重な都市農地を保全するため「都市と農業・農地の共生」をキーワードとする「農業・農地を活かしたまちづくりガイドライン」を策定しています。また、東京都では、このガイドラインを参考にして、まちづくりの主体である区市が農業・農地のもつ多面的機能を活かしたモデルプランを作成する取り組みを支援しています。

西東京市では、この東京都の支援策を活用し、貴重な農地をこれからも残していくために「西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会」を設置し、都市と農業が共生するためのモデルプランを検討してきました。協議会では、西東京市の農業・農地の現状と課題や多面的機能発揮に関わる現状の取り組みを踏まえ、どのようにすれば地域の特性を活かし、多面的機能を発揮することが出来るかを中心に検討してきました。

この「西東京市都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」では、農業者と市民、行政などが協力して、農地の持つ多面的機能を発揮できる地域を定め、それぞれの地域の特色を活かせる展開案が示されています。

今後は、このモデルプランを基に農業者と市民、行政などが協力して実現に向けた検討を進めていく予定です。